

＊ ＊ 2011 年 9 月 15 日作成(第 10 版)

＊ 2011 年 6 月 10 日作成(第 9 版)

届出番号 13B3X00100000001

器 17 血液検査用器具 臨床化学検査機器
一般医療機器 ディスクリット方式臨床化学自動分析装置 JMDN 35743010
特定保守管理医療機器 設置管理医療機器
JCA-BM シリーズ 自動分析装置 クリナライザ(JCA-BM6010)

【警告】

ブラリドキシムヨウ化メチルを投与中の患者で、実際の血糖値より高値を示す恐れがあるので、ブラリドキシムヨウ化メチルを投与中の患者における本器の血糖測定値に対する影響について、事前に製造販売業者から情報を入手すること。〔ブラリドキシムヨウ化メチルを投与中の患者で、実際の血糖値より高値を示す恐れがあり、その偽高値に基づきインシュリン等の血糖降下剤を投与することにより、昏睡等の重篤な低血糖があらわれる恐れがある。〕

【形状・構造等】



本製品は EMC 規格 EN61326-1:1997 に適合しています。

- ① 構成： 分析部と操作部より構成されています。
- ② オプション： 電解質自動分析装置
＊ ＊ 純水製造装置
- ③ 装置諸元： 純水必要量、20L/h
寸法、1220 (W) × 850 (D) × 1108 (H)
重量、450kg

【性能・使用目的】

1. 性能

- ① 測定方式
オープンディスクリットシングルライン多項目同時測定
- ② 処理能力
処理能力： 最大 1200test/h (電解質オプション付)
生化学： 最大 800 test/h
電解質： 最大 600 test/h (オプション)
検体処理能力： 最大 800 検体/時間
同時測定項目： 最大 103 項目
通常 50 (本体) + 3 項目 (電解質)

2. 使用目的

元来の方法を大きく変えずに、用手法による臨床化学分析法を着実に自動化した装置をいう。測定は、個別のキュベットで行われ、ターンテーブルで運ばれる途中に各ステーションで試料、希釈液および試薬が調合される。混合、培養および発色のための時間が考慮されており、その後、内蔵されている分光光度計で反応混合物の吸光度を測定する。

【操作方法又は使用方法（用法・用量含む）】

1. 設置条件

- ・ 当社サービス員または当社指定の技術者以外による据え付け、移設に基づく故障または損傷につきましては、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。
- ・ 検体搬送装置との接続は、当社サービス員または当社指定の技術者立ち会いのもとと実施してください。検体搬送装置は、検体と検体識別番号が常に一致すること。
- ・ 純水製造装置から本体へ供給される水の純度が落ちると、測定項目によってはデータに影響を受けることがあります。純水製造装置の取り扱い、取扱説明書に従って正しくお使いください。
- ・ 廃液は、水質汚濁防止法、医療用廃棄物処理ガイドラインなどに従って適切に処理してください。各試薬に含まれる物質のうち、公害防止条例や排水基準で規制されている物質については、それぞれの試薬メーカーにお問い合わせの上、処理してください。
- ・ 廃液にはサンプルが混ざっています。感染には十分注意してください。
- ・ 排水口は、高さ 200mm 以下、開口直径 50mm 以上にしてください。
- ・ 装置背面のブレーカーの操作に支障を来さないように、スペースを十分に (500mm 以上) 確保してください。
- ・ 本装置は D 種接地が必要です。

2. 使用環境条件

- ① この装置を設置する場所は、以下の条件を満たしてください。
- ・ ほこりがなく、換気がよいこと。
 - ・ 直接日光が当たらないこと。
 - ・ 振動が少ないこと。
 - ・ 装置を水平に設置できること。
 - ・ 電氣的ノイズがないこと。
 - ・ 高周波を出す機械（遠心分離器、放電装置など）と同じ電源を使わないこと。
 - ・ その機械の近くに設置しないこと。
 - ・ 室内の使用に限ること。
- ② 設置条件
- 電源： AC100V±10%、単相 50/60Hz、D 種接地

取扱説明書を必ずご参照ください

配電盤： ブレーカー
最大定格： 2.6kVA
周囲温度： 18～30℃
周囲温度変動： ±2℃/1h 以内
湿度： 40～70%（結露しないこと）
高度： 標高 2000m 以下
雰囲気： 腐食性ガスや振動がないこと。
電磁誘導や静電誘導など、電気的外乱がないこと。

3. 使用方法

ルーチン操作の流れ

- ① 起動
分析部のメインブレーカーを ON にする。
純水製造装置を起動する。
分析部のメインスイッチが PC CONTROL に設定されていることを確認する。
操作部の電源を ON にする。
パソコンの電源スイッチを ON にする。
プリンターの電源 ON を確認する。
システムを起動する。
分析部をレディ状態に起動する。
- ② 準備
始動前の点検・準備を行う。
ページ操作を行う。
起動時の洗浄を行う。
セルブランク測定を行う。
- ③ 分析
キャリブレーションを行う。
一般検体・至急検体を分析する。
データを確認し、転送する。
- ④ 終了・停止
終了時の洗浄を行う。
システムを停止する。
パソコンをシャットダウンして、電源を OFF にする。
分析部の電源が遮断されたことを確認する。
純水製造装置を停止する。
装置周辺を清掃する。
- ⑤ 点検・保守
点検・保守を行う。

装置のより詳しい操作方法及び使用方法是取扱説明書を参照してください。

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意事項

- ・麻酔ガスのような引火性ガスの雰囲気中では、装置を使用しないでください。この装置は、防爆構造になっていません。
- ・機器の近傍で携帯電話を使用するなど、電磁環境下で使用しないでください。測定結果に影響を与える恐れがあります。
- ・地震警報が出た場合は、装置を使用しないでください。地震発生後は、必ず装置の安全点検を行って異常がないことを確認してから使用してください。
- * 装置の保守を行う場合は、適切な保護具を着用してください。腐食性のある試薬、洗剤、セルコンディショナー、恒温槽循環液、ランプ冷却液、保冷库不凍液および感染の危険のある装置廃液やサンプルなどを取り扱う場合は、保護手袋、保護メガネ、マスクなどの保護具や保護服を着用してください。皮膚や粘膜を損傷したり感染したりする恐れがあります。
- ・洗剤は、当社が推薦しているものを使用してください。推奨品以外の洗剤を使用すると、正確なデ

ータが得られないばかりか、装置が故障する原因にもなります。

- ・装置を動作させる場合は、すべてのカバーを確実に取り付けただけで行ってください。カバーが外れた状態で動作させると、けがをしたり、装置が停止したり、破損したりする恐れがあります。
 - ・装置の運転中はビペットやターンテーブルが動きまわります。それらの移動ユニットには絶対に手を触れないでください。手を触れると、けがをしたり、サンプルによって感染症にかかったり、ユニットを破損する恐れがあります。
 - ・キーボードを長時間使用すると、手や腕などに神経障害を起こす場合があります。各施設での労働安全衛生基準などに従って作業してください。
 - ・使用者不在の休日と夜間は、必ず水道水の蛇口を閉めてください。水圧が高くなって接続部から水が漏れ、装置にかかったり、設備に被害をもたらす場合があります。
 - ・レーザービームを直接目に当てないでください。この装置には、レーザービームを使用したバーコードリーダが取り付けられています。レーザービームは、肌に当てても害はありませんが、目に直接当てると、障害を起こすことがあります。
 - ・万一、水や試薬などが装置の内部にかかった場合は、ただちに分析部の電源や電源ブレーカーを OFF にしてください。ON のままにしておくと、感電や火災の原因となる場合があります。
 - ・光源ランプを交換する場合は、あらかじめ電源を切り、10 分以上待ってから交換してください。電源を切った直後は、ランプハウスが高温になっているため、火傷をする恐れがあります。
 - ** ランプを交換したり、装置の電源を入れてしばらくはランプの光量や恒温槽循環液の温度が安定していません。60 分以上待ってから分析を行ってください。
 - ** サンプルチューブを交換する際は、取扱説明書に従って正しく取り付けてください。取り付け方法が不適切だったり、固定金具の締め付けが緩いと、サンプルチューブが徐々に動いて、サンプル吸引不良を起こす場合があります。
 - ** サンプルの吸引位置を下端に設定した場合は、適切な量のサンプルがセットされていることを確認してください。原理上サンプル不足が検知できないため、サンプル量が不適切であったりセットしない状態で分析を行うと、誤報告になる恐れがあります。
 - ・高い位置にある部品を交換したり保守を行ったりする場合は、踏み台などの足場がしっかりしたものをを用い、安全確認をしてから作業してください。
 - ・保守などのためにユニットを交換するときは、分析部の電源や電源ブレーカーを OFF にしてから行ってください。ON のまま作業すると、感電したり、電気基板を破損したりする恐れがあります。
 - ・分析中に落雷などで電源が切れたり、パソコンをリセットして起動し直したりする場合は、通常の起動方法では当日のデータ情報が消えてしまいます。取扱説明書をよくお読みになり、適切な方法で起動してください。
- これらを怠ると、正しく動作しなかったり、正しいデータが得られないことがあります。

2. 一般的注意事項

- ・納入した製品は、お客様の責任のもとで維持・管理してください。
- ・試料および試薬ポンプの定量性を保つため、その

ラインに気泡が発生している状態では分析に使用しないでください。

- ・この装置を臨床検査に使用する場合は、医師または臨床検査技師のもとでお使いください。
- ・大切なデータは、カルテ、ノート、または各種外部記憶媒体に必ず保管してください。
- ・この製品（ソフトウェアを含む）を変更または改造しないでください。
- ・装置の納入後に、移設や輸送が必要になった場合は、移設や輸送に伴うトラブルを避けるために、必ず当社指定のサービス窓口にご相談ください。
- ・取扱説明書には当社が予測し得る範囲で危険性についての警告文が記載してありますが、それ以外の危険性についても十分注意してください。
- ・この装置では、分析用のパラメータを入力する必要があります。サンプル量、試薬量、測定波長、キャリブレーション値などのパラメータは、使用する試薬や標準サンプルに添付されている値を使用してください。これらのパラメータを装置に入力するときは、取扱説明書に従って正しく入力してください。

3. 本装置固有の基本的注意

① 使用前の準備

サンプルに関する取扱注意

- ・採血管を装置へ投入する際には、必ずキャップなどを取り外してください。ピペットを損傷したり、サンプルを欠損する恐れがあります。
- ・サンプルは蒸発するので、長時間開放状態で放置しないでください。不適切にサンプルを保存した場合は、成分が変質してしまいます。
- ・サンプルにフィブリンやごみが入っていないことを確認してください。サンプリングピペット（SPP）やチューブが詰まって、正しいデータが得られない場合があります。
- ・粘度の高いサンプルは、SPP やチューブを詰まらせて、正しいデータが得られない場合があります。
- ・血清分離剤の入った採血管を使用すると、分離剤が SPP やチューブを詰まらせて、正しいデータが得られない場合があります。
- ・採血管バーコードを使用する場合は、明瞭なバーコードを正しく貼付してください。誤読防止のため、チェックデジット付きバーコードの使用を推奨します。
- ・この装置は、血清・尿・髄液を分析できるように設計されています。ただし、分析項目や試薬によっては分析できないサンプルがありますので、試薬メーカーにお問い合わせください。
- * オプションの HbA1c システムを搭載し、遠心分離[※]後の血球成分を直接サンプリングする場合は、分析条件の吸引位置を下端に設定してください。吸引位置が上端に設定されていると正しいデータが得られません。

- * ※遠心分離条件については、試薬メーカーの添付文書を参考にしてください。

測定試薬の取り扱い上の注意

- ・測定試薬・標準液・管理用サンプルの保存方法と取り扱いについては、試薬メーカーの指示に従って正しく行ってください。
- ・測定用試薬を詰め替える場合は、よく洗浄した専用容器を使用してください。
- ・サンプル系、反応系などの主要な部分（サン

リングポンプ、試薬ポンプ、光源ランプなど）を交換した場合は、キャリブレーションを行ってください。

- ・項目の組み合わせによっては、試薬が他の項目の試薬に干渉されて、測定値に影響を及ぼす場合があります。また、廃液が混ざって沈殿が発生すると、装置が故障する原因にもなります。どの項目が干渉するかは、試薬メーカーにお問い合わせください。
- ・測定用試薬は正しい位置に設置してください。間違って設置すると、正しいデータが得られないばかりか、装置が故障する原因にもなります。
- ・測定用試薬の未開封または開封後の保存方法は、試薬メーカーの指示に従ってください。不適切な保存方法では、有効期限内であっても、正しいデータが得られない場合があります。
- ・流動パラフィンを重層している試薬は使用しないでください。吸引不良などが発生する場合があります。

データに関する注意

- ・この装置でサンプルを測定する際には、測定試薬・標準液・管理用サンプルが必要です。それらの使用の可否については、それぞれの試薬メーカーにお問い合わせください。
- ・電解質（Na, K, Cl）の緩衝液や標準液などは、必ず専用品を使用してください。
- ・Cl 電極を保存するウェットパックは、開封したまま放置しないでください。開封したまま放置すると、電極が乾燥して活性が低下し、データ不良となります。

給排水に関する注意

- ・純水製造装置から本体へ供給される水の純度が低下すると、測定項目によってはデータに影響を与える場合があります。純水製造装置を取り扱う際は、取扱説明書に従って正しくお使いください。

データおよびパラメータの消失に関する注意

- ・特にシステムの立ち上げ時には、操作を間違えないように注意してください。操作ミスなどによって、データが消去される場合があります。
- ・設定パラメータは、必ずバックアップをとって保管してください。操作ミスや装置の故障によって、各種設定パラメータが消去されたり、復帰不能状態になった場合に必要となります。
- ・当社指定以外のソフトウェアを、ハードディスクにインストールしないでください。誤動作によって、データなどが消失する場合があります。

② 使用中

- * 原則として試薬の注ぎ足しは行わないでください。正しいデータが得られない場合があります。
- * 測定中は、指定された手順以外では試薬ボトルを追加したり交換したりしないでください。
- * 測定用試薬ボトルの追加や交換を行った場合は、必ずキャリブレーションを取り直してください。
- ・キャリブレーションのタイミング、頻度、および使用する標準液については、試薬メーカーの指示に従ってください。
- * 測定を行う際は、サンプルや試薬に気泡などが無いことを確認してから開始してください。
- ・サンプルを測定する場合には、適時管理用サンプルを使用して、装置の状態およびサンプルの番号と分析順番の状態をリアルタイムに監視してください。
- ・サンプル中に化学物質が共存して異常な色調を

- ・分析中に依頼削除を行わないでください。サンプル番号の整合性が失われる場合があります。

データに関する注意

- ・薬剤を投与中の患者で実際の値より高値または低値を示す恐れがあります。事前に製造販売業者から情報を入手してください。偽高値または偽低値に基づいて治療をすると重篤な症状になる恐れがあります。
- ・装置を洗浄する場合は、装置専用の洗剤や当社指定の洗剤を使用してください。
- ・測定データに異常マークが付いた場合は、反応過程の確認および再測定をお勧めします。
- ・取扱説明書に従って点検・保守を実施してください。

- ・各試薬に含まれる物質のうち、公害防止条例や排水基準で規制されている物質については、それぞれの試薬メーカーにお問い合わせの上、処理してください。

本装置を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」により、特別管理産業廃棄物となりますので、法律に従った適正な処理をお願いします。

検体の希釈も可能です。希釈液は試薬ターンテーブル 1 にセットし、反応セルへ分注されます。そこへ検体が分注され、ミキサで攪拌されます。これが希釈検体となり

測定の終了した反応セルは、洗剤洗浄と温水洗浄が行われた後、各波長のセルブランクが測定されます。

緩衝液電位を測定後、サンプルピペットによって分注されたサンプルの電位を測定し、サンプル濃度を求めます。

希釈機構を利用して血球成分の測定（HbA1c）と血漿成分の測定（Glu など）を同時に行うことができます。

023-658-2811